



新学長紹介

佛淵新体制始動！

～佐賀大学の展望について～

活躍する佐大OB

ワールド・エア・ゲームス

日本代表への道

地域貢献

佐賀県における

産学官包括連携協定に基づく

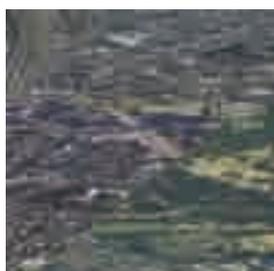
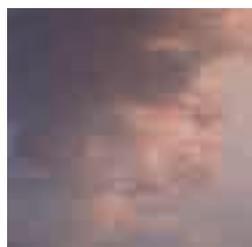
社会貢献事業

イキイキ佐大生

シリーズ

学部&学生生活紹介

サークル紹介 etc





撮影/立石 洋二郎

全国でただ一人の「手術をする国立大学の学長」

り組みを推進します。

国際的視野に立った貢献／附属病院の再整備

地域に根ざしつつ国際的な視野に立つ貢献を推進します。現在行われている地域社会への貢献をさらに発展させるために、大学が持つ多様な知的資源が地域社会、行政、企業などに貢献できるシステム作りを行います。そのためには学外に向けては分かりやすい情報発信を、学内では貢献度を教育・研究と同等に評価します。

国際貢献では留学生に対する支援を大学の責任で

行い、各講座や研究室が留学生を受け入れやすい環境を整備します。学術交流提携校との連携では積極的に教員間の共同研究などを推進します。

地域包括医療における貢献に関しては、次期中期計画・中期目標の中で附属病院の再整備が計画されていますが、附属病院が今後50年に亘る高度な診療・教育・研究活動の拠点となるべきものです。自身の吟味は当然のことながら、建設費の大部分は病院収入から返済する必要があります。したがって、病院再整備においては、学長や病院長のリーダーシップのもとに病院の経営基盤を強化しつつ、文部科学省などと交渉を行いながら、財政的負担を減らすことも大きな使命と考えています。

効率的な大学運営

全教職員の意識改革とともに、具体的な課題・目標ごとに担当者の「責任と権限」を明確にし、学内外の英知を「ブレン」として登用する体制作りを開始しました。スリムで効率的な大学運営により、本来の業務により多くの時間と労力がかけられる体制を目指します。質の高い運営は効率的な運営に繋がります。根拠のある資料・データを基に納得のいく資源の再配分と適材適所の人員配置により効率的で迅速な大学運営を目指します。

新役員紹介

- 学長 佛淵 孝夫 (たかぶみ たかお)
- 理事(教育・学生担当)・副学長 瀬口 昌洋 (せぐち しょうやう)
- 理事(企画・財務・社会貢献担当)・副学長 米倉 茂 (やいぬみ しげ)
- 理事(国際貢献担当)・副学長 中島 晃 (なかしま てる)
- 理事(医療担当)・副学長(医学部附属病院長) 宮崎 耕治 (みやざき こうじ)
- 理事(社会貢献担当)(非常勤) 緒方 龍雄 (おのべ りゅうお



同級生などの人物評は「学者というより経営者」、言い換えれば「学者肌」というよりは「職人肌・親分肌」だそうです。私の勤務状況は労基法違反？であったようです。40歳代まで1日14時間ぐらい働き、最近12時間ぐらいでした。もちろん年休や夏休みもありませんでした。学長に就任してから週に4〜5件の手術を続けていますが、勤務時間は10時間程度になり、少しい自分の時間が出来ました。

整形外科医として最も頑張っていたころは年間500件前後の手術をこなしていましたが、あの頃の頑張りや患者さん中心の医療を心がけたことが佐賀大学を股関節手術日本一に導いたと考えています。後輩のさらなる健闘を期待しつつも、私も自身も当分は全国ただ一人の「手術する国立大学の学長」を続けたいと思います。

趣味は「仕事」とスポーツ・囲碁などのテレビ観戦です。座右の銘は「志は高く、そして創意工夫」です。これまでの数多くの挫折と絶望から這い上がった、自分を鼓舞する好きな言葉です。

佛淵新体制始動！

佐賀大学の展望について

10月1日、長谷川照前学長の任期満了退任を受け、佛淵孝夫・附属病院副病院長が新学長に就任した。股関節手術では日本一の実績を持ち、これまで病院経営に敏腕を振るってきた佛淵新学長に、今後4年間の舵取りとその目指すべき方向について語ってもらった。

「夢」と「戦略」の共有化

長谷川前学長の6年間に、「佐賀大学憲章」の制定、「佐賀大学中期ビジョン」策定などによって、佐賀大学の理念と方向性が明確にされてきました。今後は、理念の実現に向けて、第2期中期計画・中期目標の着実な実行を通して、評価に耐えうる成果を出していくことが大事です。そのためには、全教職員が「夢」と「戦略」を共有し合うことが重要だと信じます。全学一体となって、10年後、50年後の佐賀大学のあべき姿を探り、「戦略」をもって、「夢」を膨らませていく必要があります。

面倒見の良い教育

大学憲章にもあり、現在、各学部やセンターなどで取り組んでいる「教育先導大学」をさらに発展させ、受験生に選ばれる大学を目指します。教養教育や専門教育以外にも様々な機会を利用して、社会



佐賀大学長

ほとけ ぶち たか お
佛 淵 孝 夫

の一員としての基本的な自己管理・危機管理の教育にも力を入れたと思います。学生生活から就職活動、さらには就職後まで「面倒見の良い」教育を進めたいと思います。卒業生が愛校心を持ち続けられる教育を目指します。

「ニーズ」に合った研究の推進

これまで本学が取り組んできた「海洋エネルギー」をはじめとした先端的研究を軸に、佐賀大学ならではの世界へ通用する研究テーマの絞り込みを行います。研究では「特化」することが求められており、「ニーズ」と「シーズ」の融合などを通して具体的な戦略を全学的に展開します。産官学共同研究はこれまで以上に推進しますが、中央の大きな大学と比較すると条件は不利です。そのためにも特色ある研究テーマへの取

志は高く、そして創意工夫

自己紹介



佛淵新学長のプロフィール

- 1952年 鹿児島県生まれ
- 1979年 九州大学医学部卒業
- 1979年 同大学整形外科入局
- 1991・92年 米国メイヨークリニック留学
- 1993年 九州大学整形外科講師
- 1997年 4月 同大学助教授
- 1997年10月 佐賀県立病院好生館整形外科医長
- 1998年 9月 佐賀医科大学整形外科教授
- 2008年 4月 佐賀大学医学部附属病院副病院長併任
- 2008年 6月 佐賀大学医学部附属病院医療情報部長併任
- 2009年10月 佐賀大学学長就任

ワールド・エア・ゲームス／FAI(国際航空連盟)が定義するカテゴリー1競技会として位置づけられ、同時に複数のエアスポーツを絡ませた世界中からパイロットが集う空の祭典です。4年に1度の空のオリンピックとも言われてきましたが、次回以降は2年に1度の開催となることと決定しています。

目標に向かって

大学卒業時に、「これからもずっと気球を続けたい」というOB、同期、後輩と話し合い、「結成10年後には競技で日本チャンピオンになり、そして世界に羽ばたき、世界の頂点を目指そう!」という壮大な目標を掲げた「バルーンクラブ風翔軍(かぜしようぐん)」を結成しました。

チーム結成後、初めて出場した98年の「佐賀インターナショナルバルーンフェスタ」では日本選手権第2位という成績を収め、その後もトップクラスの競技成績を収め続けることにより、「風翔軍」は日本代表として何度も世界選手権に出場する、日本のトップチームに上り詰めました。

そして、昨年の07年には日本選手権で優勝し、念願の「日本チャンピオン」のタイトルを獲得することができました。

次の目標は世界の頂点を制することですが、これまで4度の世界選手権出場や、空のオリンピックと称される「ワールドエアゲームス」への出場での感覚としては、世界のトップとはまだまだ差があると思います。

ただし、これまでどおりチーム一丸となり、一步一步努力していけば、おのずとその差は縮まり、そして越えることができるものと確信いたしますので、皆様方のご声援をよろしくお願いいたします。



大学1年の頃、阿蘇にて



「風翔軍」発足直後



佐賀市役所での勤務の様子

キーをゲット



「ワールド・エア・ゲームス」

日本代表への道



ワールドエアゲーム2009 日本代表
熱気球パイロット

ますもと よしひろ
増本 嘉浩

佐賀市商業振興課主任

熱気球との出会い

佐賀で生まれ育った私にとって、熱気球が特別な存在になったのは、89年に佐賀で開かれた熱気球世界選手権でした。

高校生だった私は、大会会場の嘉瀬川河川敷で、気球の大きさ、バーナーの音に度肝を抜かれるとともに、自動車のようなアクセル・ブレーキ・ハンドルもない気球が、見えない風を探りながら目的地を目指すという非常に興味を持ちました。

そして、その大会でチャンピオンとなったドイツ人パイロットが、目的地（嘉瀬川に設けられた×印のターゲット）と真ん中にマーク（採点基準となる目印）を落としていった瞬間、全身に電流が走り抜けました。

ふと、手にしていた大会プログラムを開くと、そこには「佐賀大学熱気球クラブ」の紹介記事が…。進路、そして人生が決まった瞬間です。

気球三昧な大学生活

92年に経済学部に入學して、93年に念願のパイロットになると、全国各地の競技会への出場や、唐津から佐賀までのロングフライト「天山越え」などのアドベンチャーフライトへの参加など、がむしゃらに飛び続けました。

極めつけは、ドイツのパイロットからの呼びかけによる、ヨーロッパアルプスを越えるフライトへの参加です。

高度7000メートル、外気温マイナス30℃で、時速230キロメートルのスピードでドイツからイタリアまでの約350キロメートルを飛んだのですが、気球は風と一緒に移動するので体感速度0

キロメートル、また、太陽の直射日光で上半身はほんのり暖かいという、不思議な世界だったことを記憶しています。



日本を始めとして世界中で多くの患者さんがアレルギー疾患で苦しんでおられ、例えば、日本では学童期の子供の10数%が現在アトピー性皮膚炎を持っています。アトピー性皮膚炎で命を落としてしまうことはありませんが、痒みのために日常生活に支障をきたしたり、美容上の問題を起こしたりします。

私たちの研究室では、どうしてこのようなアレルギー疾患が起きるか、そしてそれが判れば、どのようにしてアレルギー疾患を治療できるのかといった内容の研究を進めています。その結果、最近アトピー性皮膚炎が起きる新しいメカニズムを明らかにすることができ、それを元にして治療薬の開発が可能となったため、その成果を特許として申請しました。



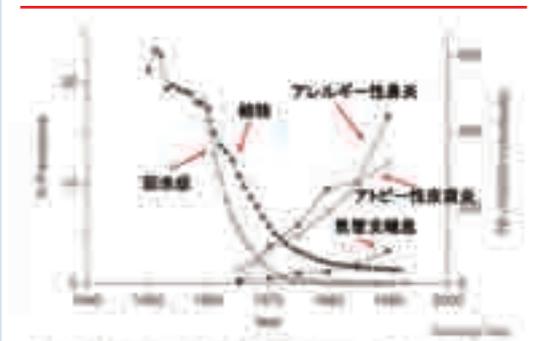
医学部 分子生命科学講座教授

いず ぼら けん じ
出 原 賢 治

アトピー性皮膚炎の治療薬開発

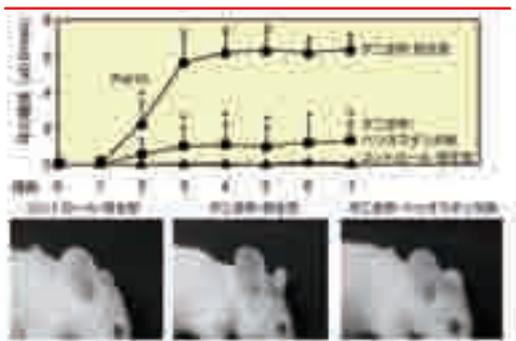
に光

我が国におけるアレルギー疾患の有症率の変移



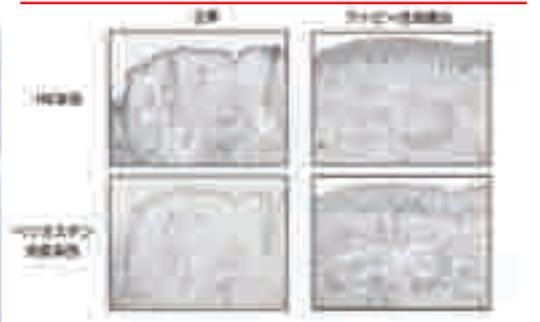
アトピー性皮膚炎を含めアレルギー疾患は、この数十年間に飛躍的に増大している。

ペリオスチンはアトピー性皮膚炎様所の形成に必要である



野生型マウスの耳は、ダニ塗布により炎症を起こして発赤しているが、ペリオスチンが欠損したマウスではダニ塗布しても発赤を起こさない。

アトピー性皮膚炎患者の皮膚組織においてペリオスチンが著明に発現している



アトピー性皮膚炎患者の皮膚組織では、ペリオスチンが強く発現している。(茶色で染まっている部分)

体外から微生物などが侵入してきた際に、私たちの体では“免疫”という機能が働き、その微生物を排除しようとしてくれます。アレルギー疾患は、ダニとかスギ花粉といった本来私たちの体にとってそれほど脅威でない外来異物が体内に入って来た際に、他の微生物と見間違えて大げさに免疫機能が働いてしまった結果生じます。リンパ球という細胞が、サイトカインというタンパク質の指令を出して免疫機能が働くことが知られています。しかし、その指令を受けたそれぞれの細胞がどのような反応を示すのかはよくわかっていませんでした。

それを解析したところ、あるサイトカインが線維芽細胞に指令を送ると、ペリオスチンというタンパク質が産生され、今度はそのペリオスチンが角化細胞に指令を送って反応が起き、また、最初の指令役のサイトカインを作るよう指示を出していることがわかりました。つまり、サイトカインをリレーの第1走者とする、ペリオスチンが第2走者であり、そしてそのリレーの先でまたサイトカインが走者となって、繰り返してリレーが続けられていることとなります。

そこで、その第2走者のペリオスチンを止めてしまえば、繰り返し続いているリレーを止めることができるだろうと考えて実験を行ってみたところ、見事に通りにリレーが止まり、つまり、アトピー性皮膚炎が起こらなくなりました。そうすると、ペリオスチンを止めてしまうような物質を開発すれば、それがアトピー性皮膚炎に対する治療薬になるだろうと考え、その方法を特許として申請しました。現在その治療薬の開発に取り組んでおり、こうした研究により患者さんの苦痛を和らげることができるようになればと願っています。

「デジタル表現技術教育プログラム」スタート

デジタル表現技術教育プログラムは、全学部の学生を対象にした佐賀大学独自の新しい学習プログラムです。このプログラムでは充実した環境とカリキュラムにより、デジタルコンテンツの理論から演習による作品制作の実践まで幅広く学習することができます。デジタルコンテンツ産業界を目指す人やデジタル表現技術を自分の研究領域に活用したい人、デジタル表現技術で文化や芸術表現を追究したい人、大歓迎。これまでにない新しい職場が開けるといいですね。

第1期(平成21年度入学)の募集定員は40名で、所属学部の専門科目を履修しつつ、2年間でデジタル表現技術分野の科目を履修します。現在、35名の学生が学んでいます。

使用するPCはMacintosh、演習室には40台の新しいPCがずらりと並び、ShadeやAdobe CS4 Master Collectionもあり、Illustrator, Photoshop, Dreamweaver, Premierなど、コンテンツクリエイターにはたまらない装備となっています。基礎と応用を学びながら、Webや映像、CG、音響作品をつくり、作品をつくることで本当のスキルが身に付いていきます。

本プログラムの修了には、必修科目16単位(8科目)と選択科目8単位(4科目)の24単位が必要です。本教育プログラムを修了した学生には、卒業時に、所属する学部専門の学位(学士)と「デジタル表現技術教育プログラム」の修了証を交付します。

(詳しくは、<http://net.pd.saga-u.ac.jp/digi-pre/>)



高等教育開発センター
教授

ほ や した いげる
穂 屋 下 茂



[履修生の作品]

(参考)

「デジタル表現技術教育プログラム」は、平成20年度の文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム」に採択された優れた教育プログラムである。「優れた取組」を「Good Practice」(略して「GP」)と呼んでいる。平成20年度は、各大学・短期大学・高等専門学校を対象に公募を行い、488大学等から939件の申請があり、148件の取組の中の1つに選定された。



「はい、どうぞ、pepSです。」正門前でpepSを配布

僕はSACという団体にフリーペーパー「pepS」を作っています。

「pepS」を作成するためには、記事のネタ決め、取材、編集、レイアウトといった記事の内容に加え、広告掲載の営業も必要です。とにかく雑誌制作を全て自分達の力だけでやっています。今年の4月に創刊し今回で3号となり、現在メンバーは17名になりました。

そもそもなぜ僕がフリーペーパーを作ろうと思ったのかをお話します。僕は大学に入って何をしたらと言われて、特に何もしていないとしか答えられませんでした。何か足りないとわかっていながらも、ただ日々を過ごしていました。そんな中、今年の1月後半、ある言葉に出会いました。「チャンスは動いて待て」。僕は衝撃を受けました。僕は今までただ待っていただけだと気づかされたのです。チャンスはどこに潜んでいるかわからないので、とにかく動くことが重要だと思ったのです。何でもいいから、本気で、何かやるしかないと思いました。僕の場合、たまたまそれがフリーペーパーになったのです。

雑誌発行の知識なんて全くなかったのですが、とにかく仲間を募り必死で作りました。あの努力は絶対に誰も真似できないと誇れます。

周囲を見回すと大学に入ることがゴールになっている学生がたくさんいます。「pepS」のコンセプトは、学生に自分の現在像・未来像に関して意識するきっかけを与えることです。僕らの活動が0から1へのきっかけになることを願って制作しています。

大学時代は成功か失敗かなどよりも、経験を積むことが大事だと思います。0勝0敗の人よりも0勝10敗の方が強い気がします。大事な勝負はまだまだ先だと考えています。

僕らはよりよい経験を積むためにフリーペーパー発行だけでなく、様々なことをやっていきたいと考えています。それが何かしらで将来に結びつくことは間違いないと確信しています。

佐大初のフリーペーパー



pepS 代表
おだ 小田 豊
ゆたか
経済学部経済システム課程3年

「pepS」を発行!!

チャンスは自分で創るもの!

チャンスは自分を創るもの!



次号の企画会議の1コマ



営業活動

商店街再生に一役、アートプロジェクト「呉福万博」

佐大生が 佐賀のアートシーンを 変えた!!

2009年9月5日から22日までの18日間、佐賀市中心街で街の空き店舗など16のスペースを使った常設展示やオープニングの「トリートメント仮装行列」、野外映画上映や音楽ライブ、元「窓の梅」での「ベンチャーサミット」などが行われたアートプロジェクト「呉福万博」。これらは、佐賀大学の美術・工芸の学生で結成された「佐賀芸術物語」が企画・運営を行ったものである。

昨年の12月、学生の発表の場として、商店街の空き店舗で複合型展覧会「アートコンプレックス」を実施。その時にも、大きなビジョンを持っていたが1回目ということもあり、全てを叶えることはできなかった。しかし、手応えは十二分にあったので、「次にやったら必ずもっと良いものができる。」と思い、「アートコンプレックス」が終了して数日後、佐賀で活動するアーティストが集まれる場所・空間を作りたいと考えた。そして、学生がもっと社会に出られるような環境を作りたいという熱い思いを持った人達によって構成された芸術団体「佐賀芸術物語」を発足させた。

発足後は佐賀県各地でワークショップや展覧会を行ったり、いろいろな人に協力を求めに行ったりして、ネットワークを広げていくとともに、運営費確保のための協賛金などをお願いなどを行った。また、開催される呉服町周辺で行われるイベントに協力したり、隔週行われる町の会議に参加をするなど、信頼関係も深めていけるように努力した。

おかげで、「呉服万博」は無事に成功し、好評を得ることができ、多くの人との関係や、佐賀の若手作家のコミュニティーを作ることができ、「アートコンプレックス」の時に想い描いていたビジョンを大きく超えることができた。今後、私は佐賀を離れるが後輩や佐賀の若手作家、その他今回知り合った多くの人達がさらに大きなネットワーク、文化を作っていくと信じている。その際には離れていても全力でサポートを行うつもりである。



呉福万博 2009 実行委員会 代表
佐賀芸術物語 元代表
呉服町さよならアーケード実行委員
もり きょうへい
森 恭平
文化教育学部美術・工芸課程4年



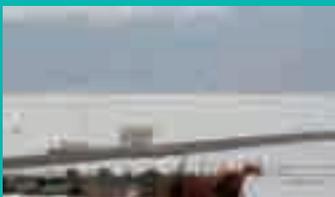
本学学長室にて開かれた放談会

古川康佐賀県知事、横尾俊彦市長会会長、飯盛康登商工会連合会会長、島内正彦商工会議所連合会専務理事をお迎えし、事業についての取り組み状況報告や意見交換が行われた。



地域振興及び産業振興に関する事業 (全3事業)

■有明海のワイズユースに関する教育研究



▲諫早開門調査の影響解明や貧酸素水塊解消策等の解析は、有明海総合研究プロジェクトにとって重要な研究テーマである。

地域から解決を求められている有明海に関連した諸課題を地域諸機関が共同で研究するとともに、有明海の魅力を次世代に伝承するための幅広い教育を実施することを目的とする。

■創造的な市民育成による高齢者のための街なか再生事業

「ゆっつら〜とまち角大学」における創造的な市民育成事業と高齢者のための街なか再生施策の検討と事業化からなる。

■SBCによる機能性食品開発の事業化プロジェクト

佐賀大学ビジネスコミュニティネットワーク(SBC)が、産学官の連携により大学の研究成果を社会的・経済的価値へと結び付ける活動を通じて地域に貢献することを目指す。



◀ナルトビエイは、近年有明海に侵入するようになり、タイラギなどの貝類激減の一因ともされている。農学部グループは、メタボリック症候群を予防する効果があるとされるナルトビエイから抽出したペプチド(アミノ酸化合物)を使った特定保健用食品(トクホ)の商品化プロジェクトを開始した。

地域医療及び福祉の向上に関する事業

■認知症サポート総合事業

医療・介護での患者・家族そして、医療経済において大きな負担となっている認知症について、「認知症を知る：認知症サポーター養成」、「認知症に気づく：軽度認知機能低下の検出」、「認知症をつなぐ：病診連携体制の充実」、「認知症を支える：医療から介護への連携」、及び「認知症から発信する：介護技術の工夫と福祉機器開発」の各事業により総合的な対策を行う。

■日韓若者文化交流事業

—— 佐賀の映像拠点づくりプログラム



日韓8県市道と古湯映画祭が協働で実施する第26回富士町古湯日韓海峡圏映画祭の「映像づくり若者交流キャンプ」の企画運営、指導の実施、また、「日韓ムービーアワード」への作品参加を希望する学生への映像づくり指導を実施。

▲9月18日から4日間の日程にて行われた、日韓映像づくり若者交流キャンプでは、制作期間も短く、言葉の壁も感じる中、ミーティングを繰り返し、深夜まで及んだ編集作業を経て完成度の高い作品に仕上げることができた。(写真は、上映会の模様)

■鍋島ルネサンス—学生の現場力を育む「知の工房：エクストラ・キャンパス」計画事業

本学の文化教育学部がこれまで教育・研究で実績を積んできた「周縁の方法」>、すなわち、<隣/周縁>という佐賀地域が置かれた不利な状況・



環境を、逆に力に変えていく独自の方法を用いて、現場体験を組み込んだインターフェイス型教養プログラムを構築し、これを学生に履修させることで、地域のリーダーとなる人材を育成する。

◀本誌でも紹介しているアートプロジェクト「呉服万博」は、美術・工芸課程の学生で結成された「佐賀芸術物語」が中心となり、街の空き店舗を利用した常設展示や仮装行列をしながらの清掃活動、野外映画上映会や音楽ライブなどが開かれ、街の活性化のために大きな役割を果たした。

情報化社会の構築に関する事業

■地域ICT利活用モデル構築事業 (遠隔医療モデルプロジェクト)

佐賀県が策定した「さがICTビジョン2008」に基づいて、医療・福祉分野のICT利活用の推進等を通じて安全・安心な県民生活の実現を目指す。具体的には、地域医療機関同士で患者の診療情報を共有し、より効率的・適切な医療を推進すること、医療webカンファレンスによる地域ケア関係者のコミュニケーションを推進すること、テレビを用いた遠隔対面コミュニケーションによる離島住民への健康診断・相談事業をおこなうことである。

佐賀県における 産学官包括連携協定に基づく 社会貢献事業

自治体や産業界等と手を取り、
6者間でのさまざまな事業が始動

平成21年度の主な事業

平成20年度からの継続事業を含め、平成21年度に実施している事業は、以下の全14事業です。

教育・文化・生涯学習及び 人材育成に関する事業 (全9事業)

■自動車人材育成事業

県内中小企業等における自動車産業の生産技術の高度化を図るため、産学官が連携して、本学において「ものづくり技術者育成講座」の開発、実践。

■農業版MOT(農業技術経営管理士)育成プログラム

農業法人・集落営農組織・農業分野への新規参入企業・アグリベンチャー企業等において中核となる人材育成を目的とする。

■プロフェSSIONALになるための異業種交流講座事業

地域活性化の中心的役割を担うプロフェSSIONALな人材育成を図り、大学を核として地域社会への貢献を高めるために、大学教員・公務員・会社員・NPO活動家などが外部講師として、自らの職務(専門分野)に関連するテーマの講義・演習を行う異業種交流講座を本学に開設。



◀「プロの仕事人」講座では、テーマごとに本学や佐賀県、民間企業から講師を招き交流講座が開かれた。(写真は、郷土史家/福岡博氏による講義の様様)

■青年期に向けた性教育の充実

中高生向け教材の作成、及び啓発手法の検討と大学生を含む青年期の性教育実践の二つの事業からなる。

■大学との人事交流

大学職員及び自治体職員の企画立案能力、組織横断的なコミュニケーション能力等の能力向上を図るとともに、本学を母体とした産学官連携を推進していくことを目的とし、本学と県、大、市、町との間の職員の相互人事交流(派遣期間1年)の推進を図る。

■学生のインターンシップ受入

県内における本学学生のインターンシップを推進することを目的に、学生受入可否のアンケート調査、受入企業を対象にしたマッチングのための聞き取り調査、広報活動、インターンシップ関係書類の整備を行う。

■佐賀県歴史データベース構築事業



佐賀県内古文書・考古学的遺物等のWebでの公開を目的としたデータベースの構築。

◀歴史研究の拠点となる「佐賀大学地域学歴史文化研究センター」

地域貢献推進室副室長

いがらし
五十嵐

つとむ
勉

佐賀県における産学官包括連携協定の締結

本学では、中長期ビジョンと社会貢献の基本方針に基づいて、社会貢献を大学の使命に位置づけ、多様な事業を推進しています。さらに、地域社会のニーズと本学の教育研究シーズにマッチングした事業を企画・推進するために、平成20年10月に、佐賀県、佐賀県市長会、佐賀県町村会、佐賀県商工会議所連合会、佐賀県商工会連合会及び本学との間で、「佐賀県における産学官包括連携協定」を締結し、多様な分野での連携・協力によって、佐賀県の発展と人材育成に寄与することを目的とした事業が開始されました。

本事業は、学内、及び連携団体等からの事業シーズの募集に基づいて、地域貢献連絡協議会、及び同協議会に設置された各事業WGによって企画を推進しています。

事業の推進にあたっての課題と期待

左記のような事業は、協定に関わる6者間の相互協力のもとに実施されねばなりません。特に事業の推進に関わる財源の確保が重要な課題となっています。外部資金の獲得も含め、この協定は産学官連携を前提としており、地域貢献推進室・各部署・産学官連携推進機構を含めた本学における事業の推進体制の整備が必要となっています。また、既存事業の進捗に関する評価や、今後、増加していく新規事業の仕分けや学内と学外との協力関係のさらなる充実が必要となるでしょう。

地方分権や地方の自律的発展が求められている状況において、本学が果たすべき教育研究に根ざした社会貢献活動は、このような社会連携・協働によって多様で、かつ実効性のある成果が得られることが期待されます。



シリーズ 学部&学

最終回

さき ぶち ひろ し之
 笹 淵 寛 之

理工学部機械システム工学科4年

波力発電装置の開発に挑む

理工学部には、数理科学科、物理科学科、知能情報システム学科、機能物質化学科、機械システム工学科、電気電子工学科、都市工学科の7学科があり、全学年あわせて2400人近い学生が学んでいます。そのなかで私は、機械システム工学科に所属しており、今、海洋エネルギーについて学んでいます。佐賀大学の海洋エネルギー研究センターでは、大きく分けて二つの取り組みをしています。まず、一つ目は、海の温度差を利用した海洋温度差発電(OTEC)及びその複合利用に関する研究です。佐賀大学の上原春男教授が、「ウエハラサイクル」を発明するなどこの分野で世界トップクラスの研究が行われています。

もうひとつは、波の力を利用した波力発電や浮体制御技術に関する研究です。波力発電は一般の人にはなじみが薄いかもかもしれませんが、現在日本でも船の航路標識ブイの電源として実用化されており、海外では商業用の波力発電装置も実用化されています。

私はそんな波力発電方法のひとつである浮体型振り子式波

力発電装置について学んでいます。固定型の振り子式波力発電装置はすでに室蘭工業大学の近藤教授らによって実験プラントが作られており、高い効率が得られています。しかしながら、建設コストが高く、台風などによる異常波浪に弱いという弱点を持っています。それに比べて浮体型は移動ができるために異常波浪から避難することができ、また造船所でも製作可能なためにコスト削減が見込まれています。

将来的には洋上風力発電のプラットフォームとしての複合利用や離島に対する電力の供給源として活用できるのではないかと期待しています。わからないことも多く、先生、先輩方から多くのご指導を受けながら卒業研究に取り組んでいます。

大学に入ってからアルバイトとして、塾やレジなどをしました。何かを教えることの難しさや、成果が出たときの達成感など、色々な経験をつむことができてよかったと思っています。また、食事は大学の学食でとることが多いのですが、土日はなるべく自炊するようにしています。自炊では、カレーやから揚げなど肉系に偏りがちなので、学食ではなるべく秋刀魚の塩焼きなどの旬の物を食べるよう心がけています。大学生活は残りわずかですが、有意義な生活を送りたいと思っています。



学生生活紹介

笑顔のステキな助産師を目指して



ちほらえりこ
千原枝里子
医学部看護学科3年

長期休みは、友人と旅行へ



看護学科3年生には、女子53名、男子6名の合計59名の学生がいます。どの学年も圧倒的に女子の数が多く、毎日の授業を全員一緒に受けるということもあり、みんなとても仲良しです。看護学科では、グループワークが多く、その中で意見交換をすることで、新しい考え方や協調性を身につけることができます。また、1年生の後期から技術演習が始まり、2年生、3年生での臨地実習に活かすことができるように日々友人と楽しく取り組んでいます。4年生には、ごく少数ではありますが、助産コースに進むことができるという魅力があります。

部活は、チアリーディング部に所属しており、1年生6人、2年生14人、3年生9人の部のキャプテンを務めています。日頃の練習では、とにかく笑顔が絶えず、「みんなでチアできて楽しい!!」の一言です。今年から学園祭や新歓、追いコンのステージ発表に加えて、本庄キャンパスのアメフト部の応援など、活動の場を広げていっています。特に、学園祭は私たちにとって一番大きな行事で一番力を入れていますので、ぜひ一度足を運んでみてください。私は一人暮らしをしていますが、平日も休日もほとんど部活仲間と一緒に過ごしています。部活後は、みんなでご飯を食べに行くなど遊びに行ったり、長期の休みには旅行に行ったりと学生生活を楽しんでいます。部活に入ることですぐに友人ができ、どんなに辛いことや大変なことがあってもみんなで支え合うことで乗り越えていくことができる、大学生活がとても充実しているように感じます。部活の仲間は私にとって最高の仲間であり、一生の宝物です。

大学生活の残りは、恋も遊びも部活も勉強も充実させていきたいと思っています。そして、毎日を笑顔で過ごせるように前向きに生きていきたいと思っています。チアリーディング部に入って仲間と協力することや笑顔の大切さを学びました。授業で学んだことだけでなく、部活動で学んだことも将来に活かしていきたいと思っています。また私は、赤ちゃんが大好きで母性に興味があるので4年生で助産コースを希望し、助産の道に進みたいと思っています。看護師、保健師、助産師と同時に3つの国家試験を受けることは大変だとは思いますが、将来のために1日1日を大切に過ごしていきたいと思っています。そして、将来は患者さんに安心感を与えられ、患者さんの心の声を聴いてニーズに応えられるような笑顔の素敵な助産師になりたいと思います。



バラフスイーツプロジェクト 始動!!



佐賀に新たなご当地メニューを

この春には、アイスも登場し、加工品としても注目されはじめていた「バラフ」。この度第二弾として、「バラフスイーツプロジェクト」が始動しました。

これは、佐賀大学発ベンチャー企業「農研堂」の呼びかけに、佐賀県洋菓子協会の方々の賛同をいただいたもので、11月16日に本学附属幼稚園にて、商品化へ向けた試食会が開催されました。

試食会には、17の洋菓子店から出品された約40種類ものケーキやシュークリーム、生キャラメルにクッキー等々が並び、どれもバラフの塩味や彩を生かしたもののばかりで、訪れた園児や保護者の方々は美味しそうに試食し、会場は楽しそうな笑い声に満ちていました。

今後は、随時、各店舗にて商品化されていきます。このプロジェクトがバラフの可能性を広げ、新たな佐賀のご当地メニューとして認知され、しいては地場産業の活性化の一翼を担うことが大いに期待されます。

国立大学法人佐賀大学では、役員の報酬等及び職員の給与の水準を公表しております。公表内容につきましては、「佐賀大学ホームページ <http://www.saga-u.ac.jp>」をご覧ください。または、人事課給与担当で文書資料を用意しておりますので、ご連絡ください。(TEL 0952-28-8125)
なお、公表内容の概要は次のとおりです。

1. 職員と国家公務員及び他の国立大学法人等との給与水準(年額)の比較指標

事務・技術職員

対国家公務員(行政職(一))..... 80.4
対他の国立大学法人等(事務・技術職員)..... 94.2

教育職員(大学教員)

対他の国立大学法人等(教育職員(大学教員))..... 93.7

医療職員(病院看護師)

対国家公務員(医療職(三))..... 93.5
対他の国立大学法人等(医療職員(病院看護師))..... 96.9

注：当法人の年齢別人員構成をウェイトに用い、当法人の給与水準を国の給与水準(「対他の国立大学法人等」においては、すべての国立大学法人等を一つの法人とみなした場合の給与水準)に置き換えた場合の給与水準を100として、法人が現に支給している給与費から算出される指数をいい、人事院において算出

給与水準の比較指標について参考となる事項

教育職員(大学教員)と国家公務員との給与水準の比較指標 91.7

(注)上記比較指標は、法人化前の国の教育職(一)と行政職(一)の年取比率を基礎に、平成20年度の教育職員(大学教員)と国の行政職(一)の年取比率を比較して算出した指数である。

なお、昨年度までは教育職員(大学教員)と国家公務員(平成15年度の教育職(一))との給与水準(年額)の比較指標である。

2. 総人件費について

区分	当年度 (平成20年度)	前年度 (平成19年度)	比較増△減		中期目標期間開始時 (平成16年度)からの増△減	
	千円	千円	千円	(%)	千円	(%)
給与・報酬等支給総額 (A)	11,148,570	11,289,121	△140,551	(△1.2)	△265,768	(△2.3)
退職手当支給総額 (B)	1,179,546	1,070,349	109,197	10.2	331,589	39.1
非常勤役員等給与 (C)	2,383,262	1,854,288	528,974	28.5	929,760	64.0
福利厚生費 (D)	1,596,620	1,562,459	34,161	2.2	△15,888	(△1.0)
最広義人件費 (A+B+C+D)	16,307,998	15,776,217	531,781	3.4	979,693	6.4

注：「非常勤役員等給与」においては、寄附金、受託研究費その他競争的資金等により雇用される職員に係る費用及び人材派遣契約に係る費用等を含んでいるため、当法人の財務諸表附属明細書の「17 役員及び教職員の給与の明細」における非常勤の合計額と一致しない。

編集後記

10月1日より、佛淵新体制が発足した。本誌巻頭では、佛淵新学長に抱負を語ってもらった。佛淵学長は、股関節手術実績では日本一で、しかも副院長としても経営手腕を振るわれてきた。これからは佐賀大学全体の経営基盤の強化に、その鋭いメスさばきが見られることだろう。

佛淵新執行部が発足後すぐさま対応を迫られたのが、事業見直し・財政縮減という政府の方向変換である。教育や基礎研究といった、その実績が数値化しにくい分野を抱える大学の舵取りはますます厳しくなるであろう。今後は、大学が税金をどのように使い、優れた成果を出しているかの説明責任がより一層問われてくる。そういう意味では、本誌を始めとして、「広報」の質・量・方法など、より一層の強化が必要ということになる。

少林寺拳法部(本庄キャンパス)



部長
ないとうだい き
内藤大貴
農学部応用生物科学科3年

こんにちは! 少林寺拳法部です。



「少林寺」と聞くと、中国武術を想像される方も多いかと思いますが、少林寺拳法は中国ではなく日本で創始された武道です。

僕たち少林寺拳法部は男子13名女子7名の計20名で、毎週月・水・金・土曜日の週4回、第二サークル会館内の道場で楽しく練習をしています。

6月に行われた佐賀県大会では、多くの先生方や先輩方に支えていただいたおかげで、団体演武の部で最優秀賞を勝ち取り、青森で行われる全国大会への切符を手に入れることができました。現在は全国大会、そして11月に行われる全九州学生大会に向けて、日夜練習に励んでいます。

また、夏に合宿に行ったり、部員全員で遊園地に遊びに行ったりと、楽しみもたくさんあります。

僕は小学生の頃から少林寺拳法をやっていた

のですが、同年代の仲間が少なかったため、大学に入り部活動を見学した時、多くの同年代の人達が練習している光景を見てすごく新鮮さを感じ「部活」として少林寺拳法をやることに魅力を感じました。

そして今、その部員の一人となり、仲間とともに同じ目標に向かっていけることが、最高に楽しく、充実しています!これから最後となる全九州大会まで、部員全員で走り抜けていきたいと思っています。



美術部(鍋島キャンパス)



部長
ますだひろこ
増田紘子
医学部医学科4年



こんにちは。私たち、医学部美術部は、毎週金曜日の放課後に、クラブハウス二階の部室で活動しています。この部は医学部で最も歴史のある部活の一つです。現在部員約30名で、男女・年齢問わず1年生から6年生まで仲良く作品作りに励んでいます。



活動内容は多岐に渡り、各々興味を持った分野に取り組んでいます。油絵、水彩画、デッサン、色鉛筆画、パステル画、日本画、貼り絵、CG、イラストなどの絵は勿論、最近では粘土細工、刺繍、習字、木彫りなどの絵以外のジャンルにもチャレンジしています。個人のブログに載せている部員もいます。部員内で作品を発表しあうことで切磋琢磨し、更なる技能の向上を図っています。

また、私たちは年に2~3回一般の方向けに展示会をしています。一番大きなものは学園祭で、ここでは毎年テーマを決めて部員全員で合作を作っています。合作は最近始めた試みなのですが、個人の思想、タッチの柔らかさ・大胆さ、好みのモチーフ、表現法などの、あらゆる個性が一つの作品の中でせめぎあっているのが面白いです。是非、展示会の際には美術部にお立ち寄り下さい。

美術は芸術表現の一つであり、人生を豊かにするスパイスだと思っています。美術に上手・下手はありません。必要なのはやる気のみ!自分の内面を表現してみませんか?皆さんの参加をお待ちしております。

作品名

「サイハナゲラレタ」

(2009年9月5日～22日開催の「呉福万博」会場にて展示)

宇宙プロジェクト代表 ^{うらごう}浦郷 ^{けいと}慧人 (文化教育学部美術・工芸課程2年 デザイン専攻)



【宇宙プロジェクトメンバー】

西山正晃 福田圭祐 高松正慎 岡崎友里
西村幸一郎 前原慎介 栗山祐平 杉本直輝
浦郷慧人 森井暁正 (順不同)

【作者コメント】

今回は宇宙プロジェクトにとって最初の展覧会であったため、どのような作風でいくのか、かなり悩みました。

おもしろいマチエールを利用した巨大なオブジェを制作したわけですが、巨大すぎて苦戦することも多かったです。しかし、とても納得のいく作品ができて良かったです。



本学の情報を携帯電話で見ることができます。簡単アクセスはQRコードをご利用下さい。
携帯用 URL: <http://daigakuic.jp/qr/qssaga-u.png>

